



「道をひらく」

高校1学年サポーター・保健体育 一鍬田孝

松下幸之助/著・(株)PHP 研究所/発行

本書は、松下幸之助が自分の体験と人生に対する深い洞察をもとに綴った短編随想集である。もし失敗から立ち直り、成功へと歩みたいのであれば、「自信を失ったときに」「困難にぶつかったときに」「運命を切りひらくために」の項が、きっと立ち直る勇気を与えてくれるだろう。



「文車日記—私の古典散歩—」

高校1学年サポーター・技術家庭 吉田純子

田辺聖子/著・(株)新潮社/発行

教科書で習った時は良さが分からなかった古文。この人の熱いエッセイを読むと古文がどんどん読みたくなります。「古いゆく君」という、自分も共に老いているのに、それを顧みず主君の若返りを願う愚かしいほど一途な崇拜の歌にほろりときます。



「物語のある広告コピー」

高校1学年サポーター・理科 藤野杏奈

(株)パイ インターナショナル/発行

「広告コピーが好きです。一言で人々を強烈に惹きつけ、物語を感じさせる広告コピーが。短歌に俳句に、日本人は言葉少なく表現することに美しさを感じるようですから、広告コピーは最たるものかもしれません。この文章は 120文字ですから、少し多すぎましたかね。」



「木曜日にはココアを」

高校1学年サポーター・英語 伊藤汐音

青山美智子/著・(株)宝島社/発行

「ココア」という言葉からあなたは何を連想しますか？ ホットするような、ほんわかしたイメージを持つのではないのでしょうか。この本はその想像を裏切らない、読めば必ず優しい気持ちになれる短編集です。忙しい毎日にほっこりした休息を持ちたい時にぜひ。



「THE JAPAN NEWS (新聞)」

高校2学年サポーター

英語 マシュー・ハマスター

Please look at the English newspaper and read a small story. You can learn some new vocabulary and maybe something interesting. Give it a try.



「俺たちの箱根駅伝 上」

高校2学年サポーター・保健体育 菅野さおり

池井戸潤/著・(株)文藝春秋/発行

箱根駅伝を舞台に、選手・監督・テレビ局スタッフそれぞれの熱い戦いを描いた作品。実在する大学や監督の名前も出てきてリアルです。数々の人間ドラマや純粋に挑戦する姿に胸を打たれます。箱根駅伝の見方が変わるかも。早く下も読みたい。



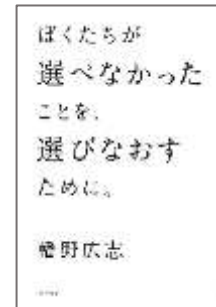
「ぼくたちが選べなかったことを、

選びなおすために。」

高校2学年サポーター・英語 荒川聡子

幡野広志/著・(株)ポプラ社/発行

「34歳のときに治らないがんの告知を受けた。後悔はない。それは、すべてを自分で選んできたからだ。」自分で選べるものって、思っているよりもたくさんあるのかもしれない。優しくて力強い言葉にあふれた、生きる勇気をもらえる本です。



「言語オタクが友達に700日間語り続けて

引きずり込んだ 言語沼」

高校2学年サポーター・英語 相馬邦成

堀元見、水野太貴/著

バリューブックス・パブリッシング/発行

YouTube での「ゆる言語学ラジオ」というチャンネルが元となって、YouTube と同じく著者の2人が対話形式で、様々な観点から言語に関するふとした疑問について語っている。リズムカルに話が進むが、内容は薄っぺらいものではなく、知的好奇心を適度に満たしてくれる。



「指輪物語」

高校2学年サポーター・理科 北崎俊光

J. R. R. トールキン/著・(株)評論社/発行

葬送のフリーレンなどのファンタジーものが好きな方におすすめ。ファンタジーものは、ほとんどが指輪物語から影響を受けたと言われているくらい古い作品。旅の目的は「一つの指輪を破壊すること」。ただその目的のためにいくつもの人や国が動く壮大な冒険譚。



「ミスト」

学校職員・学校司書 渡部安希子

スティーヴン・キング/著・(株)文藝春秋/発行

短篇集の中のひとつ「霧」。のどかな街を突如襲った霧。霧の中には「何か」がいる。想像がつかない「何か」に人々の恐怖が膨らんでいく…。不安を感じる集団心理の揺らぎ、見えない「何か」に対するパニックを見事に表現。終わり方に違いはあるが、映画にもなっているので比較してみるのもおススメ。

